

## ランチョンセミナーのご案内

---

ランチョンセミナーの整理券を下記の時間帯に配布いたします。  
なお、数に限りがございますので、無くなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。

配布場所：幕張メッセ 国際会議場2階・中央ロビー

配布時間：11月6日(木) 9時～11時（無くなり次第終了）

7日(金)・8日(土) 8時～11時（無くなり次第終了）

### ランチョンセミナー1

共催：インターシステムズジャパン(株)  
東芝メディカルシステムズ(株)

日 時：11月6日(木) 12時15分～13時15分

会 場：A会場（幕張メッセ 国際会議場2階・コンベンションホールA）

座 長：目黒 靖之（東芝メディカルシステムズ株式会社 HIS 事業部 HIS 企画部）

演題名：小児医療の抱える課題と今後の対応

演 者：康井 制洋（神奈川県立こども医療センター 総長）

急速に進行する少子高齢化を迎えたわが国が直面する近未来の課題をどのような解決するか、盛んに議論が行われている。超高齢化社会における医療費増大、労働人口減少と女性の積極的社会進出がもたらす家庭環境の変化、育児支援体制と就学制度の改革、医学の進歩と先進技術の導入による診療制度の見直し、健康意識と健康増進への関心の高まり、国際交流の促進による未知の感染症の脅威、SNSの普及による情報共有や個人情報に関する意識の多様化、等々、枚挙にいとまがない。

小児医療においても、これらの時代の変動に連鎖して、さまざまな課題が浮上している。産科・小児科医師の減少は集約と連携による医療提供体制の二極化や過疎化をもたらし、出生前診断の普及による疾病構造の変化、希少疾患・小児がん・慢性疾患患者の予後改善と難渋する移行期医療、電子カルテの普及と診療情報の継続性の担保、高度医療を支える高額医療機器の整備、診療情報の自己管理など、これらの課題は多極化し複雑化している。山積する課題解決のための展望について、小児専門病院の視点から考察し解説する。

### ランチョンセミナー2

共催：GEヘルスケア・ジャパン(株)

日 時：11月6日(木) 12時15分～13時15分

会 場：D会場（幕張メッセ 国際会議場2階・中会議室201）

テーマ：ここまできた標準規約による地域連携システムとその事例

演題名①：鳥取県医療連携システム「おしどりネット」における

標準規約の活用と今後の展望

演者①：近藤 博史（鳥取大学医学部附属病院医療情報部部长 教授、

鳥取大学総合メディア基盤センター 米子サブセンター長）

鳥取大学医学部附属病院では、2008年に電子カルテ基盤に導入したシンククライアント技術を用いて、鳥取県情報ハイウェイで結ぶ西伯病院と地域医療連携システム「おしどりネット」を2009年7月に構築・運用を開始した。

2012年5月には医療再生基金を得て、4病院6ベンダーの電子カルテ・画像システムをシンククライアントと名寄せ管理サーバで連携する「おしどりネット2」として8病院で参照するシステム拡大をし、2014年3月には、日本標準のSS-MIX2と世界標準のIHE-ITI、統合IDを採用し、「おしどりネット3」として8病院8ベンダーのシステムを11病院で参照するシステムを構築した。

今回は、「おしどりネット」の発展を背景に、シンククライアント技術・運用方法・標準規格を用

いたメリットなどを紹介するとともに、今後の展望についても触れ、地域医療連携システム構築の参考にして頂ければと考える。

**演題名②：標準規約を用いた地域医療連携ソリューションへの取り組み**

**演者②：松葉 香子**（GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 ヘルスケア IT 本部）

超高齢化社会を迎えるわが国では、「病院完結型」から「地域完結型」の医療提供の環境整備が急務である。

GE ヘルスケアでは、持続可能・相互運用可能な「地域完結型」医療の実現を支援すべく、マルチベンダー環境下では必須な、標準規約に基づいた地域医療連携ソリューションを提供している。

今回、海外から国内まで様々な地域・規模での実績を持つ、『CCA(Centricity Clinical Archive)』を中心とした、地域医療連携ソリューションを紹介する。

### ランチョンセミナー3

**共催：富士フイルムメディカル㈱**

日 時：11月6日(木) 12時15分～13時15分

会 場：F会場（幕張メッセ 国際会議場3階・中会議室302）

演題名：増大するデータを安全に効率よく経済的に管理する

～進化するテープアーカイブソリューション～

演 者：能勢 博之（富士フイルム㈱記録メディア事業部 アーカイブビジネスグループ）

日々発生する膨大な医療データを、安全に長期間に亘り管理していくことは、非常に重要な課題です。災害やデータ損失のリスクを回避する手段として、また法的規制への対応など、業務管理上必要なデータをストレージすることがより求められています。

今、その解決手段として、磁気テープが見直されています。テープストレージはこれまで、バックアップ用途で多く利用されたものの、データストレージにはあまり利用されてきませんでした。しかし、その記録媒体としての技術革新により、最近では、あらゆるデータを利活用し、価値に応じたアクティブアーカイブや統合アーカイブでも、テープストレージが有効活用されはじめています

本日は、そのような世の中の注目を集めている「磁気テープ」を使って、増大する医療情報を安全・効率的に長期にアーカイブする富士フイルムのソリューションをご紹介します。

### ランチョンセミナー4

**共催：シトリックス・システムズ・ジャパン㈱**

日 時：11月6日(木) 12時15分～13時15分

会 場：H会場（幕張メッセ 国際展示場・展示ホール7 特設会場1）

座長①：岩本 巧（シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社 営業本部 社会公共営業部）

座長②：入間 佑介（シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社 営業本部 社会公共営業部）

基調講演：仮想環境での3Dアプリケーションの動作検証報告

演 者：岡田 義広（九州大学 附属図書館付設教材開発センター 教授）

通常ワークステーションを使用する必要がある業務も、仮想化を利用する事により、タブレットから接続し、院内のどこからでも業務を行う事が出来る様になります。

本セッションでは、3D画像を仮想環境で動かした場合の操作性について、実際のデータに基づいて発表します。

パネルディスカッション：あなたの知らない仮想化の進め方

演者①：山下 芳範（福井大学医学部附属病院 医療情報部 副部長/准教授、

総合情報基盤センター 副センター長 情報セキュリティ部門長）

演者②：島井 健一郎（徳島大学病院 病院情報センター 副部長/助教）

演者③：中島 典昭（高知大学 教育研究部医療学系連携医療学部門

医学部附属医学情報センター 助教/博士（理学））

本セミナーでは、「あなたの知らない仮想化の進め方」と題し、クライアントの仮想化を実現するために院内調整やベンダとのやり取りなど、

どのように取り組まれたのか？実際にクライアント仮想化を導入頂いているお客様にパネルディスカッション形式でお話頂きます。

通常、クライアント仮想化の導入に際しては想定外の様々な課題が生じます。

ご担当者様のリーダーシップのもと、どのような方法で課題を乗り越え推進されていったのか？

クライアント仮想化に際し、皆様が抱えていらっしゃる疑問、不安を全て明らかに致します。

## ランチョンセミナー5

共催：ユニアデックス㈱

日時：11月7日(金) 12時25分～13時25分

会場：C会場（幕張メッセ 国際会議場2階・国際会議室）

演題名：高度医療 ICT ネットワークとスマートデバイスの利活用について

演者：山下 芳範（福井大学医学部附属病院）

かつては各部門やシステムベンダー毎に専用の PC やネットワーク整備を進めてきた病院情報システムだが、ネットワークの統合や仮想化技術などの普及が進み、より柔軟に病院情報システムを利用できるような環境づくりが可能となっている。

今年に入り、総務省が病院内での携帯使用制限の緩和や、携帯キャリアに対する SIM ロック解除義務化などの新たな指針が発表され、市場でも安価なスマートデバイスが登場しはじめたことで、医療現場での活用にも大きな期待が出てきている。

更に最近では、IoT（Internet of Things:モノ同士のインターネット通信）の技術も登場し、医用機器のユビキタス化や院内のさまざまな情報を従来の病院情報システムとともにビッグデータとしてクラウド化することで、これまでに無い情報提供の可能性が出てきた。これらの新しいインフラを医療情報システムとともに、どのように医療現場で活用し効果があるかを、事例を含めて紹介する。

## ランチョンセミナー6

共催：富士ゼロックス㈱

日時：11月7日(金) 12時25分～13時25分

会場：D会場（幕張メッセ 国際会議場2階・中会議室201）

座長：朴 勤植（大阪市立大学医学部附属病院 医療情報部 部長）

演題名：診療記録の電子化運用のためのシステムの要件、その中での DACS が担う役割

演者：松村 泰志（大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学 教授）

電子カルテシステムは、オーダエントリシステムに、経過記録等を電子化する機能を加え、真正性を確保してデータ保存するシステムとして開発されてきた経緯がある。一方、現実の診療記録は、多様な記録の集合であり、多くの役割を有している。しかし、それが十分に分析されないまま電子カルテシステムが開発されてきたために、医療スタッフの違和感を生む結果となった。本セミナーでは、診療記録が取り扱う記録の種類、それぞれの役割を示した上で、患者単位の記録の集合としての診療記録が満たすべき要件を示す。我々は、電子カルテのパッケージシステムに欠落している機能を補うために、統合文書管理システム（DACS）の概念を提唱し、阪大病院に導入し運用してきた。4年半のペーパーレス電子カルテ運用の中で、DACSが実際にどのような役割を担っているかを紹介する。更に、今後の計画についても触れたい。

## ランチョンセミナー7

共催：アライドテレシス㈱

日 時：11月7日(金) 12時25分～13時25分

会 場：E会場（幕張メッセ 国際会議場3階・中会議室301）

演題名：医療情報部門向け院内無線LANの基礎知識

演 者：小田 直之（アライドテレシス株式会社 上級執行役員 ヘルスケア事業推進室長）

毎年「医療情報部門向け院内LANの基礎知識」と題して、ランチョンセミナーを実施してきましたが、講演時間内だけではお伝えすることが難しくなりました。

今回このため、音声通信としてFPDなど検査装置のインフラとしても利用が始まっている、院内の無線LANに絞ってわかりやすく説明します。

## ランチョンセミナー8

共催：インテル㈱

日 時：11月7日(金) 12時25分～13時25分

会 場：F会場（幕張メッセ 国際会議場3階・中会議室302）

座 長：荒木 賢二（宮崎大学 医学部附属病院 医療情報部 教授）

演題名：成熟度モデルフレームワーク IT-CMF の医療 IT への適用

～医療情報部門をイノベーション推進組織へと変革するための医療情報技師の役割～

演者①：船木 春重（インテル㈱ 法人営業推進本部 シニア・ソリューション・スペシャリスト）

演者②：下川 忠弘（久留米大学医学部附属病院 医療情報センター 情報企画支援部門 係長）

医療において IT は単なる業務プロセス効率化のための道具というだけでなく、データの二次利用やモバイルヘルスケア、医療介護連携など、多くのイノベーションの可能性をもっており、医療情報部門がその主導的役割を担うことが期待されている。しかし、多くの医療情報部門においてそのような取り組みは本格化していない。

本セミナーではまず、一般企業の IT 部門が「IT によるビジネス・イノベーション」を起こす組織へと変革するためにインテルから始まった成熟度モデルフレームワークである「IT-CMF (Information Technology Capability Maturity Framework)」を紹介する。そして、医療機関への適用とそれによる組織変革の可能性について議論する。さらに、医療機関への IT-CMF 適用の具体的事例として宮崎大学・久留米大学における取り組みを紹介しつつ、医療情報部門をイノベーション組織へと変革するために医療情報技師が担うべき役割について議論する。

## ランチョンセミナー9

共催：㈱大黒

日 時：11月7日(金) 12時25分～13時25分

会 場：G会場（幕張メッセ 国際会議場3階・中会議室303）

座 長：本多 正幸（長崎大学病院 医療情報部長 教授）

演題名：コミュニケーションから始まるデータの有効活用

演者①：花房 陽子（大阪市立大学医学部附属病院 中央材料部 看護師長）

演者②：徳田 真一（大黒 病院支援営業部）

大阪市立大学医学部附属病院では今年末に電子カルテのリプレイスが行われます。それに先駆けて2014年10月から新物流管理システム（SPD）が導入され、稼働致しました。

「質の高い医療サービス提供体制」実現のための「医療の質」・「経営の質」両面のバランスがとれた経営改革が必要な時代に医療情報システムが重要な役割を果たしています。

物品管理のシステム化は、コンピュータシステムによる運用を前提としていますが、従来の仕事のやり方等を根本的に見直し、院内体制の整備やコミュニケーション、業務手順等の環境整備を行う業務改革システムの導入であります。精度の不確かな情報を分析しても業務改善は行われません。

今回、長崎大学病院で培ったシステムと管理ノウハウを元に大阪市立大学医学部附属病院中央材料部での業務の適正化および精度向上に向けた取り組みをご紹介します。

## ランチョンセミナー 10

共催：㈱ファインデックス（旧：㈱ピーエスシー）

日 時：11月7日(金) 12時25分～13時25分

会 場：H会場（幕張メッセ 国際展示場・展示ホール7 特設会場1）

テーマ：文書や画像の次世代利用方法 データから付加価値創造

座 長：三原 直樹（大阪大学医学部附属病院 医療情報部 准教授）

演題名①：カルテを文書へ、文書入力データを業務支援へ 記録済みデータのフル活用

演者①：渡辺 宏樹（国立病院機構東京病院 情報管理部長）

演題名②：画像データを紹介へ利用。円滑運用に導くポイントとは。

演者②：長谷川 裕明（株式会社ファインデックス）

電子カルテが普及してきた昨今、文字や画像など様々な形の診療データが電子化されてきました。しかし電子化された情報が十分に利用されているかを検証してみると難しい状況が浮き彫りになります。例えば今春の改定のように診療報酬に設備や人員配置といった算定要件からADLが入院中に悪くなっていないかといったアウトカムを算定要件に求められるようになると電子カルテの情報といえども利用するのが難しいと気付かれている関係者が多いことでしょう。またファイリングされた画像や検査結果を紹介で利用しようとしても思ったようにできない現実を痛感している関係者もおられることでしょう。折角電子カルテになってもデータをうまく利用できないと非常に残念です。今回本セミナーでは、データ化した診療情報を十分に活用し尽くすアイデアについて講師の先生にご教授頂きます。ひとつは後々必要とされる情報を電子カルテから流し、タグ付きの文書に入れ込み業務利用していく方法、もうひとつはファイリングした画像や検査結果をうまく紹介に利用し活用していく実現アイデアについてです。皆さまの奮っての御参加をお待ち申し上げます。

## ランチョンセミナー 11

共催：シュナイダー・エレクトリック㈱

日 時：11月7日(金) 12時25分～13時25分

会 場：I会場（幕張メッセ 国際展示場・展示ホール7 特設会場2）

座 長：有本 一（ビジネスデベロップメント 本部長）

演題名①：東日本大震災に学ぶサーバ室管理

演者①：坂本 博（東北大学病院 診療技術部放射線部門 メディカルITセンター（兼）

演題名②：「ちょっと待って！ そのデータ、どこに保存されるかご存じですか？」

～医療情報を支える最新病院内データセンター～

演者②：有本 一（ビジネスデベロップメント 本部長）

医療機器の高度なIT化が進み、医用画像などのデータ量が爆発的に拡大し続けるなか、適切なデータ保存と高度な情報活用の両立が求められています。また、大量のICT機器を的確に管理運用していく上では、病院内での「データセンター」機能の実現が必要とされるのではないのでしょうか。

予測のつかない電源障害に備えて導入した無停電源装置(UPS)だけでは、病院内の膨大なデータを守ることはできません。これからのサーバーームやデータセンターは、より高度な温湿度管理や、IT資産およびエネルギーの適切な運用管理までもが要求されることでしょう。

本セミナーでは、医療情報システムの基盤を支える物理インフラに必要なとされる可用性や耐障害性と、それを「限られたスペース」で実現している病院内データセンターの事例などをご紹介します。

## ランチョンセミナー 12

共催：(株)PFU

日時：11月8日(土) 12時25分～13時25分

会場：F会場（幕張メッセ 国際会議場 3階・中会議室 302）

演題名：【在宅医療での最新事例】

24時間体制の在宅医療を支える患者情報のデジタル共有

演者：遠矢 純一郎（医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 院長）

本セミナーでは、桜新町アーバンクリニック院長 遠矢純一郎様をお迎えし、スマートフォンやスキャナなどデジタル機器を使って患者情報を共有し、情報連携を効率化した最新事例をご紹介します。

2025年にピークを迎える高齢化社会と、自宅での療養の望む患者の増加に伴い、在宅医療のニーズは急増しています。東京都世田谷区の「桜新町アーバンクリニック」は最先端の在宅医療を実践する医院。開業でありながら300人を超える在宅の患者を24時間体制で受け入れるためには、院内のスタッフはもちろん、ケアマネージャーや訪問看護師、薬剤士など地域の医療福祉従事者との連携は欠かせません。在宅医療の最前線でのデジタル活用方法をご紹介します。

ぜひ皆さまのご参加をお待ち申し上げます。